

夏季学園

5年担任 竹内 駿

5年生は8月18日(日)から20日(火)まで、夏季学園に出かけました。天気も大きく崩れることなく、全ての行程を終えることができました。

準備は夏休み前から始めました。それぞれの班や係ごとに集まって、夏季学園での生活をよりよくするためにできることを考えました。キャンプファイヤーを企画したり、お風呂の注意をポスターにまとめたりするなど、期待に胸を膨らませていました。

富岳風穴や湧水の里水族館、森のふれあい館などに行きました。箱根高原学園は、豊かな自然に囲まれたところにあります。大自然の中で走り回ったり、生き物に触れ合ったり、赤坂ではできない体験をたくさんしました。

普段の生活では、保護者の方にやってもらっていることも夏季学園では自分たちでやらなければなりません。入浴や食事、就寝準備など、身の回りのことはすべて自分たちで行いました。困ったときに友達と助け合うことで、絆も深まりました。

また宿舎では、青山小学校の児童と一緒に過ごしました。出発前に校長から「赤坂小学校の代表として挨拶は自分からする。」という話がありました。1日目にはできなかったことも、3日目には進んで挨拶する児童が増えました。他にも、5分前に自ら時計を見て行動することができるようになりました。

毎日当たり前のように過ごしている赤坂とは違う環境での生活。家族ではなく、友達と生活する機会はとても貴重なものです。今後も様々な壁にぶつかることがあると思います。そんな時も、仲間と協力して生活したことを思い出し、共に助け合い、支え合いながら成長してほしいと思います。



田舎の夏休み体験教室

～岐阜県郡上市での2泊3日～

1年担任 佐伯 奈那

7月30日～8月1日の2泊3日で、赤坂地区総合支所主催による「田舎の夏休み体験教室」に参加しました。赤坂、青山、青南小学校の4～6年生から希望者を募り、本校からは15人が参加しました。水の都として知られ、夏の間毎日盆踊りが行われる郡上の城下町は、小京都として名高く、赤坂・青山地区とは歴史的に深いつながりのある地域です。

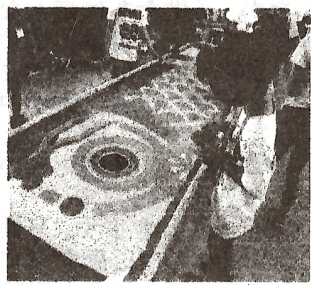
天気にも恵まれ、子供たちは元気いっぱいにごすことができました。

この3日間で、いろいろな体験をすることができました。初日は、地元の郡上小学校の6年生と協力して、鯉のぼりの郡上染めに挑戦しました。昨年度に引き続き、オリンピック・パラリンピックの五輪のマークの色で染め上げました。夜は、伝統の郡上踊りを体験しました。浴衣に手ぬぐい、下駄を履いて地元の人たちと一緒に30分間踊り続けました。

2日目は、ラフティングを行いました。通常より川の水量が多く、大迫力の中、仲間たちと力を合わせてパドルを漕ぎました。その日は、子供たちが楽しみにしていた民泊でした。川遊びや畑仕事のお手伝いなどそれぞれの家庭で楽しく過ごしました。

最終日は、鮎の掴み取りをしました。取った魚を自分たちで串焼きの形にしてから、焼いてもらって美味しく頂きました。命の尊さにも触れることができました。

他の学校の子供と交流することや、都会である赤坂では味わえない多くの自然を体験することが、子供たちを成長させ、東京駅に着く頃には一回り大きくなっているようでした。



二年生「新しい一歩で 伸びていく力」

2年担任 濃野 文子

2学期、2年生は100名でスタート。学校中で一番児童数の多いこの学年は、元気いっぱい仲良しの子供たちです。1年生の時から比べると、できることもたくさん増えてたくましくなりました。一人ひとりの成長だけでなく、グループやクラス、学年合同の活動を通して集団としての力も付いてきています。

生活科では、「なぞの種」を植えたり、アゲハ蝶やメダカを卵から育てたり、芝小のプールで生まれたヤゴの世話をしたりしました。たくさんのヤゴからトンボに羽化したのはたった数匹だけ。命の尊さや不思議を知る機会となりました。同じことに関心をもった子供たちでグループを作って、観察したり本や図鑑で調べたりしたことを、1年生の「きょうだいさん」に教えること(プレゼン)にも挑戦しました。

2学期は、秋祭りや音楽会、図工作品展と創造力を伸ばす機会が多くあります。子供たちで考え、話し合い、協力したことがどんな形で実を結ぶか。友達とのかかわり合いの中でしか得られない経験と力は、高学年になった時のリーダーシップや自ら学ぶ力につながります。夏休みにのびのびと過ごしてエネルギーを蓄えた2年生が、力を合わせるとどこまでできるかを楽しみにしてください。